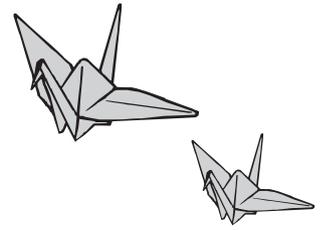


第12回

伊賀市非核平和推進 中学生 広島 派遣団レポート



【問い合わせ】 人権政策・男女共同参画課 ☎ 47-1286 FAX 47-1288

《行程表》

～1日目～

被爆体験講話聞き取り⇒原爆ドーム見学
⇒千羽鶴献納⇒広島
平和記念資料館見学

～2日目～

平和記念式典参列⇒
平和演劇鑑賞



8月5日から2日間、市内の各中学校代表の生徒10人を広島市へ派遣しました。
参加した生徒は、71年前に起きた人類史上最初の原子爆弾による悲惨な現実を、見て、聞いて、肌で感じて、非核平和への思いを新たにしました。その内容を、生徒のレポートからお伝えします。

被爆体験講話

11歳のとき、爆心地から約2km離れた自宅で被爆した、瀬越睦彦さんからお話を伺いました。

◆青山中学校 古市 弘樹

語り手の瀬越睦彦さんは、戦争に振り回された少年時代を語ってくれました。

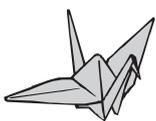
その中で瀬越さんは、「戦争は子どもの心まで鬼にする」と言っていました。この言葉から、人の心に悲しさを突き刺した戦争の残酷さを感じました。

◆島ヶ原中学校 吉川 大翔

私は瀬越さんの言っていた「戦争は人の考えさえもおかしくする」という言葉が印象に残りました。人の性格さえも変えてしまうほど戦争はおそろしいものだということを改めて感じる事ができました。



▲▶メモを取りながら、真剣に被爆体験者の話
に聞き入る生徒たち



▶「戦争を体験したことのない人が、戦争はいけないことだとわかるためにも、このような被爆体験講話は必要だと思った。」(生徒談)



どの角度から見ても
骨組みが見えている…。
建物をこんな風にしてしまう
原爆は本当に恐ろしい。
(生徒談)



原爆ドーム

原爆の惨禍を伝え、核廃絶と人類の平和を求める誓いのシンボルである原爆ドームの見学を行いました。

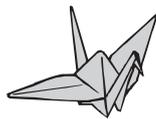
◆緑ヶ丘中学校 中 瑞希

広島はともきれいでした。しかし、原爆ドームは焼け焦げていて、その恐ろしい姿からは、本当に原爆が投下されたんだと実感することができました。
ここで感じた悲しい気持ちを忘れないようにしたいです。



▶「実際に原爆ドームを間近で見て、原爆が落とされたときのことを思い浮かべてとても怖くなった。」(生徒談)

▶原爆ドーム付近に設置されたパネル展。
生徒たちは、広島や長崎に投下された原爆に関する資料を見ながら平和の尊さについて学びました。





学校みんなが
折ってくれた千羽鶴を、
しっかりと気持ちを入れて
捧げることができた。

(生徒談)



◀原爆の子の像の内側には鐘があり、生徒たちはその鐘を鳴らして平和への祈りを捧げました。

◆城東中学校 宮本 京和
原爆の子の像には、小さな子から大人まで全国の人たちが作った鶴が捧げられていました。
そこには、二度と戦争をしてほしくない、核兵器を使ってほしくないという思いが込められていて、平和を心から願う気持ちを感じました。

原爆の子の像
市内の中学生一人ひとりが折った千羽鶴を捧げました。

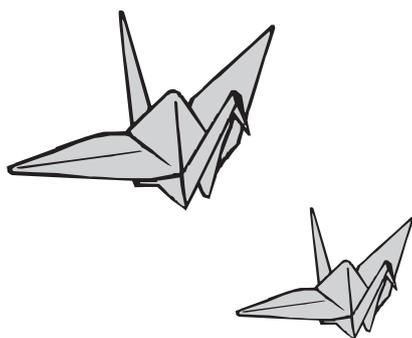
◆上野南中学校 森下 梨乃
平和記念資料館に行つて、写真を見てとても心が痛くなりました。
一番印象に残っているのは、皮膚が垂れ下がっている人形があったことです。それを見て、本当に戦争は怖いものだと思感できました。

◆崇広中学校 平田 智千
平和記念資料館では、無残に溶けた皮膚や顔がなくなった少女の写真などを見学し、それがとても心に突き刺さりました。
原爆は全てを破壊するのだと改めて感じ、核兵器廃絶への気持ちがより一層強くなりました。

◆原爆による惨状を示す写真や資料の見学を行いました。

広島平和記念資料館





▼「平和記念式典に参列したのは初めてだった。中学校に帰ったら、今日のことを周りのみんなにしっかり伝えたいと思った。」
(生徒談)



平和記念式典

広島市原爆死没者慰霊式並びに
平和祈念式に参列しました。

◆大山田中学校 川極 景勝

日本の人だけでなく、外国の人も平和記念式典に参加していたところを見て、世界中の人々が平和を願っていると感じました。

世界中の心が一つになって、核兵器のない平和な世界をめざしていきたいです。

◆霊峰中学校 福永 怜央

暑い中、世界各国や日本全国からたくさんの方が、原爆が投下された広島を訪れて式典に参加していました。

僕も、その一人として参加させていただき、その場にいた大勢の人の世界平和を祈る気持ちを感じました。



▲式典会場に供えられた花に折り鶴を添える様子。

平和演劇鑑賞

広島市立舟入高等学校演劇部による演劇「八月の青い蝶」を鑑賞しました。



◆柘植中学校 上地 一輝

青い蝶の標本には、切ない少年の日の記憶が刻まれていました。愛する人を簡単に消し去ってしまう戦争の恐ろしさを改めて感じました。

普通に夢を持ったり、人を好きになったりすることをなくしてしまう戦争は、あってはならないものだと思います。

◆阿山中学校 藤原 優佑

一発の原子爆弾が一人の若い女性の「命」と「未来」を奪い、少年の心を傷つけました。

原爆の被害とは、町がどれだけ焼けたとか目に見えるものだけじゃなく、人の心をどれだけ傷つけたかということだと思いました。